

中国語を母語とする日本語学習者の 「動詞- ようになる」の習得について

——状態変化を表す「動詞- ようになる」の習得上の問題——

渡 邊 ゆかり

要 旨

先行研究では、中国語を母語とする日本語学習者の「動詞- ようになる」の習得に関し、レベルが上がっても不自然な使用や使用すべきところでの不使用が見られることが指摘されてきた。しかし、このような学習者が「動詞- ようになる」を習得する上でどのような点に留意すればよいのかについては言及していない。そこで、本研究では、これらの先行研究を踏まえ、中国語を母語とする日本語学習者が「動詞- ようになる」を習得する上で問題点を整理すると共に留意点を示すことを目的とした。稿者は、本目的のために、①「動詞- ようになる」文が現れる文環境、②「動詞- ようになる」文と対応する中国語文が現れる文環境、③中国語母語話者の「動詞- ようになる」の誤用について調査を行った。その結果、Ⅰ「動詞- ようになる」が、単なる状態変化ではなく、定着度の高いある事態 A が、あることをきっかけに、定着度の高い別の事態 B へ移行することを表すこと、Ⅱ「動詞- ようになる」文が、新たな事態の発生を誘発した事態、事物を表す表現や新たな状態への移行時期を表す表現や新たな事態へ移行する際の様相を表す表現を伴いやすいことに留意する必要があることが明らかとなった。

キーワード：「動詞- ようになる」、状態変化、中国語母語話者、習得、誤用

1. は じ め に

植松（2016）は『『ようになる』は多くの日本語教科書において初級で扱われている文法項目であるにもかかわらず、レベルが上がっても不自然な使用や不使用が見られる（p. (27)）』と指摘している。また、特に「中国語母語話者においては、日本語母語話者と比べて『ようになる』の使用が少ないことが観察される（p. (27)）」と述べている。また、台湾人日本語学習者の「動詞- ようになる」の習得について調査した菊池（2017）も、台湾人日本語学習者についても『『動詞ようになる』を使用すべきところで使用していなかったり、ほかの表現を用いたりする例が見られる（p. 31）」と述べている。しかし、いずれもこのような中国語を母語とする日本語学習者が「動詞- ようになる」を習得する上で具体的にどのような点に留意すればよいのかについては言及していない。

そこで、本稿では、これらの先行研究を踏まえ、中国語を母語とする日本語学習者が「動詞- ようになる」を習得する上での問題点を整理すると共に留意点を示すことを目的とする。

2. 先 行 研 究

2.1 「動詞- ようになる」の用法説明

日本語教科書や文法説明書において「動詞- ようになる」は、どのように説明されているのであろうか。

市川（1997）は、『日本語誤用例文小辞典』において「動詞- ようになる」は「変化が徐々に起こり、習慣的、恒常的な状態になる（なった）という時に使われる（p. 136）」と説明している。また、「動詞- てくる」との意味的相違にも触れており、「動詞- てくる」は「変化そのものの生起・出現に焦点が置かれる（p. 136）」としている¹。さらに、市川（2005）は、『初級 日本語文法と教え方のポイント』において「動詞- ようになる」は、「時間をかけて習慣・能力が身に付くという意味合いを持つことが多い（p. 240）」としている。このほか、日本語教科書や文法説明書において「動詞- ようになる」がどう扱われているかを調査した植松（2012）は、調査の結果、初級後半に「技能の獲得」という文脈で提出されることが多いこと、「状態変化を表す」と説明される傾向にあることを明らかにした。

2.2 「動詞- ようになる」の習得に関する研究

「動詞- ようになる」の習得に関する主な先行研究には、植松（2016）、菊池（2017）が存在する。このうち、植松は、「対照研究」と「誤用観察」に基づき中国語母語話者が「動詞- ようになる」と何を類義表現と捉えているかを分析し、中国語母語話者は、「動詞- ようになる」と「動詞- ている」を類義表現と捉えている可能性がある²と結論づけた。さらに、菊池は、台湾人日本語学習者の「動詞- ようになる」の習得について分析を行い、「動詞- ようになる」文に対応する中国語文には「変」²などの変化を表す動詞が含まれることが少ないため、日本語の表現を考える際に「動詞- ようになる」が現れにくいと考えた。

2.3 先行研究から見える課題

以上、「動詞- ようになる」の用法説明と「動詞- ようになる」の習得に関する先行研究を簡単に紹介した。これらから、「動詞- ようになる」が初級後半で、「技能の獲得」をはじめとする状態変化を表す表現として扱われる傾向にあること、中国語母語話者にとって「動詞- ようになる」の自然な使い方を習得することが容易でないことがわかる。菊池はその原因を、「動詞- ように

なる」文と対応する中国語文に「変」などの変化を表す動詞が含まれることが少ないことによるとした。

では、なぜ、「動詞- ようになる」文と対応する中国語文に「変」などの変化を表す動詞が含まれることが少ないのであろうか。「動詞- ようになる」文は、中国語でどのように表現されるのであろうか。

本研究では、これらの問題を明らかにするために、まず、BCCWJ³を用い、日本語文において「動詞- ようになる」が出現しやすい文環境を調べる。次に、市販の HSK 公式過去問題集中の日本語訳付き中国語文を用い、日本語訳で「動詞- ようになる」が用いられている箇所が中国語でどのように表現されているかを調べる。最後に、中国語母語話者が書いた日本語作文に見られる「動詞- ようになる」の誤用について分析する。

3. 調 査 方 法

1 で述べたように、本稿の目的は、中国語を母語とする日本語学習者が「動詞- ようになる」を習得する上での問題点を整理すると共に留意点を提示することである。そのために、本研究では、以下の三つの調査を行った。

- ①「動詞- ようになる」文が出現する文環境の調査
- ②「動詞- ようになる」文と対応する中国語文が出現する文環境の調査
- ③中国語母語話者の日本語作文に見られる「動詞- ようになる」文の誤用の調査

まず、①の調査は、BCCWJ（コアのみ）から抽出した変化を表す「動詞- ようになる」文を対象に行った。BCCWJ（コアのみ）からの用例抽出は、「中納言」⁴の文字列検索で「ようにな」を指定して行った。このようにして抽出した用例の中には、「- ようになる」の前部が「～ない」の形を取るものも含まれていたが、これは削除した⁵。また、変化の意味を表わさない「動詞- ようになっている」も削除した⁶。

次に、②の調査は、以下の問題集に掲載されている中国語文のうち、対訳日本語において「動詞- ようになる」が用いられている部分を対象に行った。

- 孔子学院总部 / 国家汉办（2014）『HSK 公式過去問題集 5 級2013年度版』スプリックス
- 孔子学院总部 / 国家汉办（2014）『HSK 公式過去問題集 6 級2013年度版』スプリックス
- 孔子学院总部 / 国家汉办（2015）『HSK 公式過去問題集 5 級2015年度版』スプリックス

- 孔子学院总部 / 国家汉办 (2015) 『HSK 公式過去問題集 6 級2015年度版』 スプリックス

最後に、③の調査は、以下の作文コーパスから中国語母語話者の「動詞- ようになる」の誤用を抽出し、この特徴について分析した。

- 作文対訳データベース⁷
- JCK 作文コーパス⁸
- 日本語学習者作文コーパス⁹

以上が本研究の調査方法である。次の 4 では、これらの方法を用いた調査の結果を見ていく。

4. 調 査 結 果

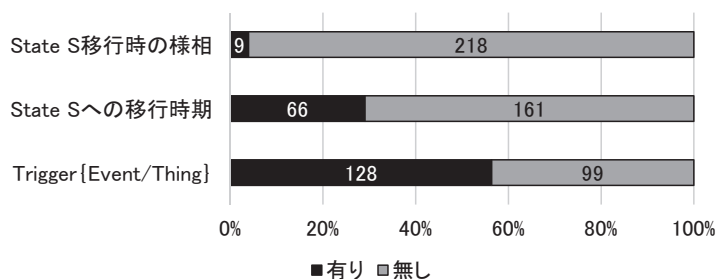
4.1 BCCWJ 中の「動詞- ようになる」文の出現環境

ここでは、「動詞- ようになる」文の出現する文環境についての調査結果を示す。

3 で述べた方法を用いて BCCWJ (コアのみ) から抽出した用例は、全部で227例であった。この227例について、「動詞- ようになる」文と以下の三つの要素との共起率を調べた。なお、S は「- ようになる」に埋め込まれた文を示す。

- 「動詞- ようになる」文が表す変化を誘発した事態、事物を表す表現
- 「S- ようになる」の S が表す事態への移行時期を表す表現 (例：その時に)
- 「S- ようになる」の S が表す事態へ移行する際の様相を表す表現 (例：しだいに)

その結果は、グラフ 1 のとおりである。なお、グラフ 1 中の「Trigger {Event/Thing}」は、「動



グラフ 1 「動詞- ようになる」と共起する表現

詞- ようになる」文が表す変化を誘発した事態、事物を示し、「State S」は S が表す事態を示す。また、「Trigger {Event/Thing}」としても「State S への移行時期」としても解釈可能なものについては、重複してカウントした¹⁰。グラフ 1 より、三つの要素の中では、「Trigger {Event/Thing}」が他の二つの要素よりもよく出現することがわかる。

続いて、「動詞- ようになる」文とこれら三要素がどのような形で文中に現れているかを見ていく。

まず、「Trigger {Event/Thing}」を表す表現は、表 1 のとおりである。なお、表 1 中の「～」は「動詞- ようになる」文の箇所を示している。

表 1 「Trigger {Event/Thing}」を表す表現

「動詞- ようになる」文後行型		「動詞- ようになる」文先行型	
【Trigger Event】型		【Trigger Thing】型	
【Trigger Event】+ 句点型	【Trigger Event】+ 非句点型		
【Trigger Event】。～ 【Trigger Event】。このため～ 【Trigger Event】。そうすると～ 【Trigger Event】。そこで～ 【Trigger Event】。その結果～ 【Trigger Event】。そのときに～ 【Trigger Event】。それ以来～	【Trigger Event】連用中止形～ 【Trigger Event】うちに～ 【Trigger Event】結果～ 【Trigger Event】ため／ために ～ 【Trigger Event】たら～ 【Trigger Event】て～ 【Trigger Event】で～ 【Trigger Event】てから～ 【Trigger Event】と～ 【Trigger Event】によつて～ 【Trigger Event】のが転機となり～ 【Trigger Event】ば～ 【Trigger Event】ほど～	【Trigger Thing】から～ 【Trigger Thing】のおかげで～	～のは【Trigger Event】 ～理由は【Trigger Event】

以下の (1) – (5) は、この具体例に相当する。なお、用例中の波線、傍線は稿者による。

【Trigger Event】+ 句点型

- (1) 計画では、まず最初に小型の軌道旅行用宇宙船を作り、それを徐々に大型化します。
多くの人間を運べるようになり、 (BCCWJ、PM21_00239)

【Trigger Event】+非句点型

- (2) ただ、天下りの構造で親会社より子会社が利益を上げることを許さないという体質があるため、子会社は親会社の顔色ばかりをうかがうようになってしまい、(BCCWJ、PB13_00021)
- (3) 我が国に在留する外国人は、近年増加の一途をたどっており、地域において多様な文化的背景を持った幅広い年齢層の人々が、社会の様々な場面で、日本人と深いかかわりを持ちながら生活するようになっています。(BCCWJ、OW6X_00000)

【Trigger Thing】型

- (4) 竹酢溶液のおかげで、野菜はいっさい農薬を使わず栽培できるようになりました。(BCCWJ、PM21_00167)

「動詞- ようになる」文先行型

- (5) 人とスムーズに話することができるようになるのは1にも2にも実践訓練しかありませんよ♪(BCCWJ、OC09_04682)

表1より、原因・結果の関係を表す接続表現、条件を表す接続表現、時を表す接続表現が使用されていることがわかる。また、「動詞- ようになる」文先行型のように、強調構文の述部に**【Trigger Event】**が現れているものも存在する。

次に、「State S への移行時期」を表す表現は、表2のとおりである。なお、表2中の**【Reference Event】**は、「State S への移行時期」の参照点となる事態を示し、**【Specific Time】**は、数詞で表される特定の時を示し、「～」は「動詞- ようになる」文の箇所を示している。

以下の(6)－(9)は、この具体例に相当する。なお、用例中の波線、傍線は稿者による。

【Reference Event】型

- (6) さらに、平成8年の衆議院小選挙区選出議員選挙からは、政見放送として政党が作成したビデオを放送することができるようになったことに伴い、(BCCWJ、OW6X_00044)

【Specific Time】型

- (7) 藩財政が窮迫を告げるようになった十八世紀に入ると、いずこの藩でも多用されるようになった。(BCCWJ、PN2d_00020)

時間副詞相当語型

- (8) 現在では、山を切り開き、トンネルを通らずに町に出入りできるようになったので、(BCCWJ、PM41_00182)

「動詞- ようになる」文先行型

- (9) ある程度の自信が持てるようになったのは、二十九歳の頃であった。 (BCCWJ、PB45_00024)

表2 「State S への移行時期」を表す表現

「動詞- ようになる」文後行型			「動詞- ようになる」文先行型
【Reference Event】型	【Specific Time】型	時間副詞相当語型	
【Reference Event】その時に～	【Specific Time】以降～	後で～	～のは、【Specific Time】 ～のも、このころだ ～ 【Specific Time】
【Reference Event】そのれ以来～	【Specific Time】以来～	いつごろからか～	
【Reference Event】うちに～	【Specific Time】から～	いつしか～	
【Reference Event】ころ～	【Specific Time】に～	近年～	
【Reference Event】その日から～	【Specific Time】にかけ～	現在～	
【Reference Event】た～	【Specific Time】になっ～	現代の社会において～	
【Reference Event】直後から～	【Specific Time】に入っ～	今回～	
【Reference Event】てか～	【Specific Time】より～	最近～	
【Reference Event】と～	この【Specific Time】で～	戦後～	
【Reference Event】とき～		そのうち～	
【Reference Event】ほど～		そのころ～	
		そろそろ～	

表2より、時を表す接続表現や時間副詞相当語が用いられていることがわかる。この他、「動詞- ようになる」文先行型のように、強調構文の述部に移行時期を表す表現が現れているものも存在する。

次に、「State S 移行時の様相」を表す表現は、表3のとおりである。なお、表3中の「～」は「動詞- ようになる」文の箇所を示している。

表3 「State S 移行時の様相」を表す表現

次第に／しだいに～ 徐々に～

以下の(10)は、この具体例に相当する。なお、用例中の波線、傍線は稿者による。

- (10) とくに重要なのは良いところ。最初は恥ずかしがりますが、次第に言えるようになる。
(BCCWJ、PM41_00192)

最後に、「動詞- ようになる」文がこれら三つの要素のうち少なくともいずれか一つと共起する割合を調べたところ、結果は約78%であった。すなわち、「動詞- ようになる」文は、比較的、これら三つの要素のいずれかと共起しやすいと言える。

以上、ここでは、「動詞- ようになる」文の出現環境について見てきた。次の4.2では、「動詞- ようになる」文と対応する中国語文の出現環境について見ていく。

4.2 「動詞- ようになる」文と対応する中国語表現

HSK 公式過去問題集中の中国語表現のうち、対訳日本語として「動詞- ようになる」が用いられているものは39例存在した。なお、対応箇所の日本語訳は意識であり、直訳ではない。では、どのような中国語表現が「動詞- ようになる」文に意識されやすいのであろうか。

菊池は、『動詞- ようになる』に関しては対応する中国語に『變』が含まれないことが多い (p. 31)」と述べているが、調査対象とした39例についても「変」が使用された用例は以下の2例 (約5%) のみであった。なお、用例中の波線は稿者による。

- (11) 这一奇招使得罐頭大卖，产品马上从滞销变为畅销。(HSK 5級2015年度版 p. 105)
(11)' この変わった方法によって缶詰は大いに売れ、売れ行きの悪かった商品はすぐによく売れるようになった。(同上 p. 328、(11) の日本語訳)
(12) 坚持去做一些让自己感到恐惧的事情，或是完成一些原先自己认为不可能做到的事情，你就会变得越来越自信，(HSK 6級2015年度版 p. 65)
(12)' 自分に恐怖を感じさせることをやり続ける、または、初めは自分にはできないと思っていたことを成し遂げるとだんだんと自信を持つようになり、(同上 p. 265、(12) の日本語訳)

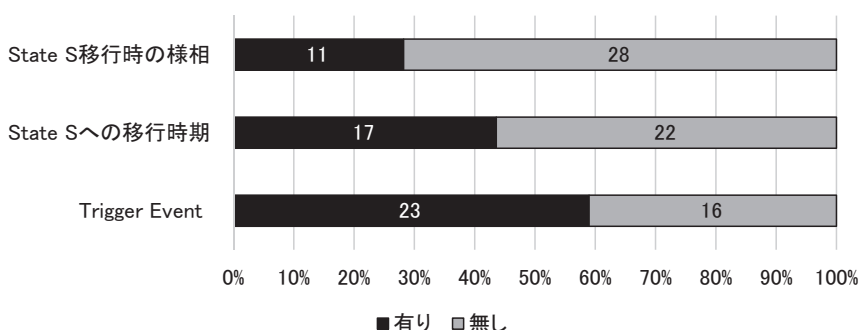
つまり、「動詞- ようになる」という訳し方は、「変」以外の要素の影響を強く受けていることが示唆される。では、どのような要素の影響を受けているのだろうか。

この「動詞- ようになる」文と対応する中国語文の39例について、以下の三つの要素と共起する割合を調べたところ、結果はグラフ2のとおりであった。

- 対応中国語文が表す事態の発生を誘発した事態を表す表現

- 対応中国語文が表す事態への移行時期を表す表現（例：后来）
- 対応中国語文が表す事態へ移行する際の様相を表す表現（例：渐渐）

なお、グラフ 2 中の「Trigger Event」は、対応中国語文が表す事態の発生を誘発した事態を示し、「State S」は、対応中国語文が表す事態を示す。また、「Trigger Event」としても「State S への移行時期」としても解釈可能なものについては、重複してカウントした。



グラフ 2 「動詞- ようになる」文と対応する中国語文と共起する表現

グラフ 2 より、三つの要素の中では、「Trigger Event」が他の二つの要素よりもよく出現することがわかる。出現率は、60%弱で、グラフ 1 に挙げた「Trigger [Event/Thing]」の出現率よりも高い。また、「State S への移行時期」「State S 移行時の様相」の出現率も、それぞれグラフ 1 で挙げた「State S への移行時期」「State S 移行時の様相」の出現率よりも高い。

続いて、対応中国語文とこれら三要素がどのような形で文中に現れているかを見ていく。

まず、「Trigger Event」を表す表現は、表 4 のとおりである。なお、表 4 中の「～」は、対応中国語文の箇所を示している。

表 4 「Trigger Event」を表す表現

【Trigger Event】+ 句点型	【Trigger Event】+ 読点型	【Trigger Event】+ その他型
【Trigger Event】。～ 【Trigger Event】。从那以后～ 【Trigger Event】。结果～ 【Trigger Event】。这个让～	【Trigger Event】，～ 因为【Trigger Event】，所以～ 经过【Trigger Event】，～ 随着【Trigger Event】，～ 只有【Trigger Event】，才～ 【Trigger Event】，从而～ 【Trigger Event】，就～ 【Trigger Event】，因此～ 【Trigger Event】，于是～ 【Trigger Event】，这促使～	【Trigger Event】让～ 【Trigger Event】就～ —【Trigger Event】就～ 【Trigger Event】后，～ 【Trigger Event】后，就～

以下の (13) – (15) は、この具体例に相当する。なお、用例中の波線、傍線は稿者による。

【Trigger Event】+句点型

- (13) 职工们每天上班时，第一眼看到的便是“我很重要”这四个字。不管是一线职工还是管理层，都认为领导很重要视他们， (HSK 5 級2013年度版 p. 128)
- (13)’ 職員たちが毎日出勤する時に、まず初めに目にするのが「私は重要」の4文字である。すると、第一線の職員と管理職とにかかわらず皆、上司が自分たちを重要視してくれていると思うようになり、(同上 p. 376、(13) の日本語訳)

【Trigger Event】+読点型

- (14) 没过多久，粮商便降低了米价，于是，老百姓也买的起来了。 (HSK 6 級2015年度版 p. 94)
- (14)’ 間もなくして米屋は米の価格を下げ、庶民も米を買えるようになった。(同上 p. 324、(14) の日本語訳)

【Trigger Event】+その他型

- (15) 再学习起来就会更有兴趣。 (HSK 6 級2015年度版 p. 172)
- (15)’ 再び学ぶとより興味を持つようになります。((14) の日本語訳)

表4より、原因・結果の関係を表す接続表現、条件を表す接続表現、時を表す接続表現が用いられていることがわかる。また、【Trigger Event】が兼語文中の使役動詞‘让’‘捉使’の主語として現れているものも存在する。

次に、「State S への移行時期」を表す表現は、表5のとおりである。なお、表5中の【Reference Event】は、「State S への移行時期」の参照点となる事態を示し、「～」は、対応中国語文の箇所を示している。

表5 「State S への移行時期」を表す表現

【Reference Event】型	名詞もしくは副詞型
经过【Reference Event】～ 随着【Reference Event】～ 一【Reference Event】就～ 【Reference Event】。从那以后～ 【Reference Event】，这时候（才）～ 【Reference Event】后～ 【Reference Event】过程中～	后来～ 后人～ 现在～

以下の (16) – (18) は、この具体例に相当する。なお、用例中の波線、傍線は稿者による。

【Reference Event】型

- (16) 经过一段时间的发声练习，能唱上去了，(HSK 6 級2015年度版 p. 172)
- (16)' 科学的な発声練習をある程度の時間をかけて行い、歌えるようになり、(同上 p. 173、(16) の日本語訳)
- (17) (前略) 这让来参观的人啧啧称奇。从那以后，桔多淇的摄影工作室受到人们的关注，(HSK 5 級2015年度版 p. 138)
- (17)' 参観に来た人は、舌を打ち鳴らして不思議がった。それ以降、桔多淇の撮影アトリエは、人々の注目を受けるようになり、(同上 p. 388)

名詞もしくは副詞型

- (18) 后来，人们用这个成语来比喻和讽刺那些目光短浅又盲目自大的人。(HSK 5 級2015年度版 p. 126)
- (18)' 後に、人々はこの成語（主に 4 文字の慣用句）を用いて目先のことしか考えず、うぬぼれている人を比喩し風刺するようになった。(同上 p. 373、(18) の日本語訳)

表 5 より、【Reference Event】が現れるものと、時間を表す名詞もしくは副詞が現れるものとが存在することがわかる。

次に、「State S 移行時の様相」を表す表現は、表 6 のとおりである。なお、表 6 中の「～」は「動詞- ようになる」文の箇所を示している。

表 6 「State S 移行時の様相」を表す表現

渐渐～
就～
马上～
越来越～
逐渐～

次の (19) は、この具体例に相当する。なお、用例中の波線、傍線は稿者による。

- (19) 渐渐地，街上的人都知道这个年轻人。(HSK 5 級2015年度版 p. 166)
- (19)' 次第に、町の人は皆この若者を知るようになった。(同上 p. 166、(19) の日本語訳)

表 6 より、State S へゆっくり移行することを表す表現だけでなく、「就」「马上」のように、すぐに移行することを表す表現も用いられていることがわかる。

最後に、対応中国語文がこれら三つの要素のうち少なくともいずれか一つと共に起る割合を調べたところ、結果は約95%であった。すなわち、BCCWJ 中の「動詞- ようになる」文よりも、

HSK 公式過去問題集に存在した対応中国語文の方がこれらの要素のいずれかと共起する割合が高い。したがって、対応中国語文に「変」などの変化を表す動詞が含まれることが少ないのは、中国語ではこれら三要素のいずれかを用いることで、「動詞- ようになる」文が表す意味が対応中国語文に付与されるためではないかと考えられる。

以上、ここでは、HSK 公式過去問題集に存在した、日本語訳中の「動詞- ようになる」文と対応する中国語文の出現環境について見てきた。次の4.3では、中国語母語話者の作文に見られる「動詞- ようになる」の誤用について見ていく。

4.3 日本語学習者の作文に見られる「動詞- ようになる」の誤用

誤用調査の結果発見された、中国語母語話者の「動詞- ようになる」の誤用には、以下の A、B の二つのタイプが存在する。

- A 「動詞- ようになる」を使用しているが、使い方が不自然
- B 「動詞- ようになる」を使用していない

まず、A の「動詞- ようになる」を使用しているが使い方が不自然なものを見ていく。A のタイプの誤用は、以下の A1－A3 の三つのサブタイプに分けられる。

- A1 「動詞- ようになる」を使用しない方が自然
- A2 「- ようになる」の前に来る動詞が不適切
- A3 A1 と A2 の混合型

このうち、A1 の具体例としては、以下の (20)－(23) が挙げられる。なお、傍線は稿者による。

- (20) もし皆さん中国の地図を見れば、黒龍江省の東側にロシアと接している興凱湖という湖があることが分かるようになります。(JCK コーパス、c29-1「鶏西の観光地」)
- (21) 翌日、天気はすばらしくて、私たちは朝ご飯を食べ終わったら、早く出発して、目的地は万里の長城で、ついで三時間かかりました。遠いところから見て、それは中国の竜のようです。本当に驚きました。自然的な景色を見たら自分の心も癒されるようになりました。(JCK コーパス、c44-3「私の趣味について」)
- (22) そして、時間につれて、私は書道がだんだん好きになるようになった。(JCK コーパス c46-3「私の趣味」)

- (23) 次に、女性は仕事したいと思う人が増えるようになりました。(JCK コーパス、c30-2「晩婚化」)

いずれも、傍線部を「分かります」「癒されました」「好きになりました」「増えました」に換えた方が自然である。「分かる」「癒される」「好きになる」「増える」はそもそも状態変化を表す動詞であるため、状態変化の意味を付与する「- ようになる」は不要である¹¹。

また、A2 の具体例としては、以下の (24) (25) が挙げられる。

- (24) そして、晩婚が晩育に引き起こって、ある程度の経済基礎があってから、もっと素晴らしい配慮を子供に提供して、さらに健康な子供を養われるようになると考えている。
(JCK コーパス、c16-2「晩婚化について」)
- (25) その時はそんなに夢中になっていなかったけれども、だんだん美しい音楽に感動されるようになった。(JCK コーパス、c46-3「私の趣味」)

(24) は、「養われる」を「養える」に換えた方が自然であり、(25) は、「感動される」を「感動する」に換えた方が自然である。これは、「- ようになる」の前に用いる動詞の態（ヴォイス）の誤りに起因する。

さらに、A3 の具体例としては、以下の (26) が挙げられる。

- (26) 趣味といえば、ほとんどの人は音楽や読書や運動などのことを思うようになります。
(JCK コーパス、c58-3「私の趣味」)

(26) は、「思うようになります」の部分で「思い浮かべます」に置換すると日本語として自然となる。「思う」と「思い浮かべる」の使い分けは別として、ここでは、「- ようになる」の使用は不自然である。学習者は、「趣味のことを考える」という行動が、意識変化を誘発したことを表すために「動詞- ようになる」を使用したものと推察される。しかし、(26) で描かれている変化は、ある条件下で発生する一時的な意識変化であり、定着度の高いある事態 A が、あることをきっかけに、定着度の高い別の事態 B へと移行することを表しているわけではない。したがって「- ようになる」が使用できない。

次に、B の「動詞- ようになる」を使用していないものについて見ていく。B のタイプの誤用は以下の B1、B2 の二つのサブタイプに分けられる。

B1 「動詞- ようになる」と類似形式を混同している

B2 「動詞- ようになる」も類似形式も用いていない

このうち、B1 の具体例としては、以下の (27) (28) が挙げられる。なお、用例中の傍線は稿者による。

(27) 紙折りに限った事ではなく、先生に教えられて、各種類の模型を作ることになりました。(JCK コーパス、C58-3「私の趣味」)

(28) 日本語に何もわからないわたしは、この2年3ヵ月の間にだんだん日本語に興味を持ってきた。(日本語学習者作文コーパス、CG025「外国語がうまくなる方法について」)

(27) は、「作ることになりました」を、「作るようになりました」に換えた方が自然である。これは、「- ことになる」と「- ようになる」が形式的にも意味的にも類似しているために生じた誤用と考えられる。また、(28) は、「興味を持ってきた」を「興味を持つようになった」に換えた方が自然である。これは、「- てくる」を変化の意味で使用する際には、「- てくる」の前に変化の意味を表す自動詞を用いなければならないことに起因する誤用である。学習者はこの文法規則を理解していなかったか、もしくは、「興味を持つ」を「興味がわく」のような変化を表す自動詞表現として理解していた可能性がある。ただし、(28) については、「興味を持つようになってきた」という表現中の「- ようになる」が脱落したものと解釈した場合は、次に見ていく B2 の例として分類できる。

B2 の具体例としては、以下の (29) – (35) が挙げられる。なお、用例中の傍線は稿者による。

(29) 私たちは毎日単語を覚えることである。そして、私たちは毎日外国語の文章や外国語の新聞などを読むことである。それを通じて、私たちはたくさん知らない単語が分かった。(日本語学習者作文コーパス、CG074「外国語がうまくなる方法について」)

(30) 一方で、くりかえすこともあります。本を読むとき一つを何回もくりかえしたら、覚えることができるし、はつおんもうまくなります。そしたら話すときは、とても上手に、きれいな、うまく話せることができます。(日本語学習者作文コーパス、CN317「外国語がうまくなる方法について」)

(31) たばこをよく吸うことの結果、人はたばこを依頼する。(作文対訳データベース、JaZhCN014_02_1「煙を吸うことについての意見」)

- (32) 最近中国人の生活のレベルがあがっているにつれて、中国人は春節の休みを利用して一家が旅行にいきます。(作文対訳データベース、JaZhCN067_01_1「中国の春節」)
- (33) 台湾では、たばこを吸わない人が何年間もかけて、公共の場の禁煙の法律が作られた。それ以来、始めて、公共の場所で楽しめることができた。(作文対訳データベース、JaZhJP067_02_1「たばこについてのあなたの意見」)
- (34) 近年爆竹を鳴らしてはいけないことになってから十二時になったら広場で花火が打ち上げられます。(作文対訳データベース、JaZHCN0062_01_ 1「中国の春節」)
- (35) 女性も社会で様々な場所で活躍するようになりました。仕事はだんだん男よりもうまくやれるし、仕事に対する責任感もととても強いです。(JCK コーパス、c30-2「晩婚化」)

これらのうち (29) には、(20) と同様「わかる」が用いられているが、ここでは (20) とは異なり、状態動詞として使用されている。したがって、「分かるようになった」が自然である。このように「わかる」は、変化動詞として使用する場合と状態動詞として使用する場合がありますので、この違いが判別できないと「わかるようになる」が自然か否かの判断が難しい¹²。また、(29) - (35) の傍線部は、いずれも、定着度の高いある事態 A が、あることをきっかけに、定着度の高い別の事態 B へと移行することを表している。さらに、(29) - (35) は、いずれも 4.1 で挙げた「動詞- ようになる」と共起可能な三要素のいずれかが現れている。このことから、B 2 のタイプの誤用の発生を予防する、あるいは、発生した誤用を訂正する際には、「動詞- ようになる」選択の鍵として、以下を意識させることが望ましいと考えられる。

B2 タイプの誤用とかわかる留意点

- 定着度の高いある事態 A が、あることをきっかけに、定着度の高い別の事態 B へと移行することを表す。
- 新たな事態の発生を誘発する事態、事物を表す表現、新たな事態への移行時期を表す表現、新たな事態へ移行する際の様相を表す表現を伴いやすい。

以上、4.3では、学習者の誤用例を整理すると共に、その誤用の原因について分析を行った。次の5では、ここまでの知見に基づき、中国語を母語とする日本語学習者が「動詞- ようになる」を習得する上での問題点を整理すると共に留意点を提示する。

5. 「動詞- ようになる」を習得する上での問題点と留意点

「動詞- ようになる」は、定着度の高いある事態 A が、あることをきっかけに、定着度の高い別の事態 B へと移行することを表す表現である。このような意味を持つ「動詞- ようになる」文と対応する中国語文には、菊池が指摘したように「変」などの変化を表す動詞が含まれることが少ない。稿者は、この原因について、以下に挙げる三要素の少なくともいずれかを対応中国語文と共に用いることで、対応中国語文に「動詞- ようになる」文が表す意味が付与されるためではないかと考えた。

- 対応中国語文が表す事態の発生を誘発した事態を表す表現
- 対応中国語文が表す事態への移行時期を表す表現
- 対応中国語文が表す事態へ移行する際の様相を表す表現

したがって、中国語母語話者が「動詞- ようになる」文を選択する際には、まず、以下の2点に留意する必要がある。

- 「動詞- ようになる」文は、定着度の高いある事態 A が、あることをきっかけに、定着度の高い別の事態 B へと移行することを表す。
- 「動詞- ようになる」文は、新たな事態の発生を誘発する事態、事物を表す表現、新たな事態への移行時期を表す表現、新たな事態へ移行する際の様相を表す表現を伴いやすい。

すなわち、「動詞- ようになる」文を導入する際には、「動詞- ようになる」文と共起しやすい要素と共に提示し、これらの要素にも着目させながら意味を導入することが望まれる。また、その際、「動詞- ようになる」が単なる状態変化ではなく、定着度の高い事態 A から定着度の高い事態 B への移行を表していることも意識させる必要がある。この他、「動詞- ようになる」不使用の原因には、「動詞- ことになる」「動詞- てくる」といった類似表現との混同も存在した。したがって、「動詞- ようになる」を導入する際に、類似表現との相違を明確にしておくことも必要である。

学習者の誤用には、この他、「動詞- ようになる」を使用すべきでないところで「動詞- ようになる」を使用しているもの、「動詞- ようになる」の前に来る動詞が不適切なものも存在した。

前者の「動詞- ようになる」を使用すべきでないところで「動詞- ようになる」を使用してい

る誤用では、学習者は、変化を表す自動詞を「- ようになる」の前に来る動詞として選択していた。この原因については、「- ようになる」の前に用いることのできる動詞についての知識が不足している可能性と、変化を表す動詞と状態を表す動詞を混同している可能性の二通りが考えられる。一つ目の可能性に対しては、導入の際に知識としてインプットする必要がある。二つ目の可能性に対しては、「動詞- ようになる」の学習とは別に、日々、動詞の意味を正確に覚えるよう心掛けることが肝要である。

次に、「動詞- ようになる」の前に来る動詞が不適切なものについては、「- ようになる」の前に来る動詞の態（ヴォイス）や類義表現との使い分けに問題があった。これについても、その動詞の態（ヴォイス）や類義表現の使い分けを正確に把握することが不可欠である。「動詞- ようになる」の学習とは別に、日頃から、動詞の態（ヴォイス）や類義表現の適切な使い分けに留意することが肝要である。

6. お わ り に

以上、本稿では、中国語を母語とする日本語学習者が「動詞- ようになる」を習得する上での問題点を整理すると共に留意点を提示した。また、稿者は、「動詞- ようになる」文と対応する中国語文に「変」などの変化を表す動詞が含まれることが少ない原因についても言及したものの、判断の根拠とした中国語と日本語の対訳用例数が少なかった。今後は、この点を検証するために、対訳作品を対象とした調査を行い、この点について検証したい。

注

- 1 王（2012）も「動詞- ようになる」と「動詞- てくる」の比較を行っている。王は、「動詞- ようになる」は、「主に一方の状態からそれと異なるもう一方の状態へと時間をかけて変化していくことを表す（p. 49）」とし、「動詞- てくる」は、「主に連続的な状態的变化を表す（p. 49）」としている。
- 2 菊池（2017）は、論文で繁体字の「變」を用いている。本稿では、菊池からの直接引用部分を除き、中国語の漢字として簡体字の「变」を使用する。
- 3 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」（BCCWJ）は、国立国語研究所によって構築された、現代日本語の書き言葉の全体像を把握するためのコーパスである。書籍全般、雑誌全般、新聞、白書、ブログ、ネット掲示板、教科書、法律などのジャンルにまたがって1億430万語のデータを格納しており、各ジャンルについて無作為にサンプルを抽出している。
- 4 「中納言」は、BCCWJを対象とした検索エンジンである。
- 5 例えば、以下の例がこれにあたる。
 - (i) 誰がトイレに行ったのかまでわかるんですから、自分を隠せないようになる（BCCWJ、PM41_00192）
- 6 例えば、以下の例がこれにあたる。
 - (i) ラッシュ時には跳ね上げれるようになっているはずですが、（BCCWJ、OY14_11812）
- 7 「作文対訳データベース」は、国立国語研究所日本語教育センターにより作成されたものである。次の

URL からアクセスできる。http://contr-db.ninjal.ac.jp/essay_01.html

- 8 「JCK 作文コーパス」は、科学研究費補助金「テキストの結束性を重視した母語別作文コーパスの作成と分析」(2013年度～2015年度、基盤研究 (C)、研究課題番号：25370577、研究代表者：金井勇人) の助成を受け作成されたものである。次の URL からアクセスできる。<http://nihongosakubun.sakura.ne.jp/corpus/>
- 9 「日本語学習者作文コーパス」は、科学研究費補助金基盤研究 (C)「自然言語処理の技術を利用したタグ付き学習者作文コーパスの開発」(課題番号：22520537、代表：李在鎭) の助成を受けて作成されたものである。次の URL からアクセスできる。<http://sakubun.jpn.org/>
- 10 例えば、次の (i) がこの例に相当する。(i) の「それを繰り返す」は、「動詞- ようになる」文が表す変化を誘発した事態を表す表現として解釈できる。また、「それを繰り返すうちに」は、「S- ようになる」の S が表す事態への移行時期を表す表現として解釈できる。
 - (i) しかしそれを繰り返すうちに、泣きたくなるほど苦しくても、微笑むことができるようになり、(BCCWJ、PB11_00013)
- 11 ただし、「わかる」については、状態変化としてだけでなく、状態を表すのに使用することもある。両者の相違は、注12に示す。
- 12 例えば、次の (i) は、変化動詞として用いられている「わかる」の例であり、(ii) は状態動詞として用いられている「わかる」の例である。
 - (i) 今の説明、わかりましたか？
 - (ii) 私は日本語がわかります。

参 考 文 献

- 庵 功雄ほか (2000)『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク pp. 75-76
- 市川保子 (1997)「Ⅱ. テンス・アスペクト 【9. なる・ようになる】」『日本語誤用例文小辞典』凡人社 pp. 132-137
- 市川保子 (2005)『初級 日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク p. 240
- 植松容子 (2012)「日本語教育における『ようになる』の扱い—韓国語母語話者を対象とした文法記述のために—」昭和女子大学近代文化研究所編『学苑』864 pp. (30)-(37)
- 植松容子 (2016)「中国語母語話者は『ようになる』と何を類義表現と捉えるか—対照研究と誤用観察から分かること—」昭和女子大学近代文化研究所編『学苑』910 pp. (27)-(36)
- 植松容子 (2017)「『勘どころ』を押さえた文法記述に対する反応調査—韓国語母語話者を対象とした『ようになる』を例に—」横浜国立大学国語・日本語教育学会編『横浜国大国語研究』35 pp. 109-123
- 王 崗 (2012)「『～ようになる』と『～てくる』についての分析」創価大学日本語日文学会編『日本語日文学』 pp. 43-50
- 菊池律之 (2012)「台湾人日本語学習者の『動詞ようになる』の習得について」『天理大学学报』69(1) pp. 31-41
- グループ・ジャマシイ編 (1998)『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版 p. 623